

「ファイン・ブレンド (毎月分配型／資産成長型)」 日興アセットマネジメント

金融商品の
取扱説明書
トリセツ

— 第46回 —

リスク・コントロール型のバランス型ファンドの中でも「リスク・パリティ」戦略を採用する『ファイン・ブレンド』。設定以来、堅調な実績を残しており、販売件数・純資産残高も増加傾向にある。ファンドの特徴・実績や、ファンド活用のポイントなどについて、FPでファンドアナリストでもある吉井崇裕さんに質問していただいた。

吉井崇裕
Interviewer

よしいたかひろ／アイデア・ファンド・コンサルティング代表
ファンドアナリスト、FPとして投資信託を専門とした投資助言業を行う。著書『はじめての投資信託』（日経文庫）。
<http://ideafc.co.jp/>



日興アセットマネジメント
安永哲次
資産運用サポート部長

5つの資産の組合せにより 変動を抑えつつ収益を狙う

吉井 まずは『ファイン・ブレンド』を設定した背景と商品の概要をお聞かせください。

安永 『ファイン・ブレンド』は、2014年からスタートしたNISA Aでの利用を想定して2013年に作られたファンドです。「一度売却すると、その分の非課税枠を放棄することになる」「利益に対する非課税制度である」「非課税期間は5年間」というNISAの制度内容を踏まえ、市況に合わせてファンド内で自由に資産配分を変更することができ、かつ5年間保有し続けたときに利益が出ている確率が高い商品を目指し設計しました。

具体的には、『ファイン・ブレンド』では、中長期的に収益が期待できる「超長期の日本国債」「金利水準が高い海外のソブリン債」「配当利回りが高い世界の株式」「グローバルREIT」「金」の5つの資産を投資対象としています。値動きが異

なる傾向にある5つの資産を組み合わせることで、基準価額の変動を抑えながらも収益の獲得を目指します。

5資産の配分比率は、各資産がファンドの基準価額に与える影響度合いが、5資産間で概ね均等になることを目指して決定します。このため、価格変動が大きい資産の組入比率は少なめになり、価格変動が小さい資産の組入比率は多めになります。この戦略を当社では「ファイン・ブレンド戦略」と呼んでいます。年金運用の世界では「リスク・パリティ」と呼ばれ広く活用されています。

なお、『ファイン・ブレンド』には、毎月決算を行う「毎月分配型」と、月1回決算を行う「資産成長型」があります。

超長期国債や金があるから 好配当株式も組み入れられる

吉井 「リスク・パリティ」について、詳しく解説していただけますか。

安永 「リスク・パリティ」は、リターン・ショック後に、当時の反省

資産間でリスクを打ち消し合っ

てもらうことでファンド全体のリスクを抑えるという戦略です。ボラティリティが高い、つまりしつかりと値動きのする投資対象や他資産との相関が低い投資対象を組み入れる必要があります。当ファンドの投資対象のひとつである日本国債において、短期国債ではなく残存期間が10年以上の超長期国債を組み入れているのはそのためです。金を組み入れているのも、同様の理由です。

逆にいうと、超長期国債や金を組み入れているからこそ、収益性が高くリスクも高い好配当株式やグローバルREITをたくさん組み入れることができるわけです。

吉井 私自身も、金を組み入れたポートフォリオをお客さまに提案しています。債券の利回りが下がってきている中、リターンを確保するには一定程度のリスクを取って株式を組み入れなくてはなりません。そうした中でリスクを何で打ち消すのかを考えたときに、金の一つの選択肢になると考えています。

安永 金を組み入れていることで、金の値上がりや強気で見ているのですかという質問を受けることもありますが、必ずしもそうではないという点をご理解いただけるよう努めています。

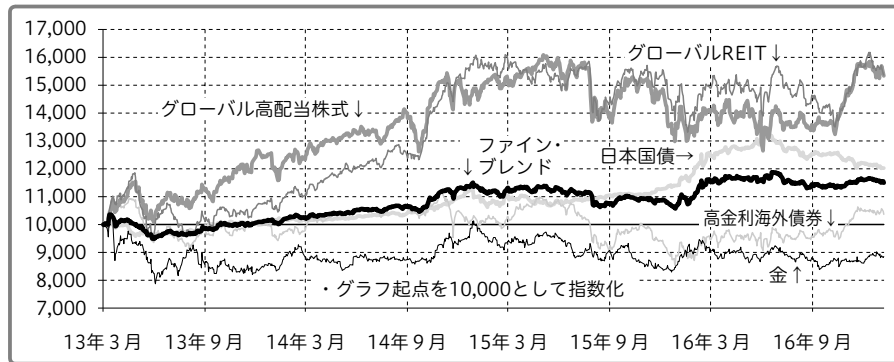
また、『ファイン・ブレンド』は現金の比率でリスクをコントロールする商品ではないため、有価証券の比率は常に高位に保たれています。そのため、資産配分が固定されたバランス型ファンドほどではないものの、上昇局面で素直にリターンが出やすい商品であるといえます。

リスク水準の想定がないため 過去の実績を参考に

吉井 資産配分を決定するに当たっては、各資産のリスク水準をどう推計するかがポイントのひとつとなると思います。『ファイン・ブレンド』がモニターしている指標や、その判断基準について教えてください。

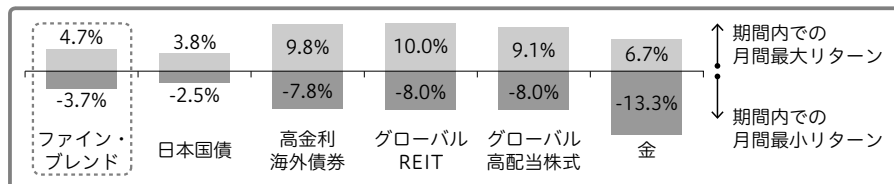
安永 『ファイン・ブレンド』では、日興グローバルラップからの助言をもとに、基本的には月に一度、資産

図表1 「ファイン・ブレンド」基準価額と各資産の推移 (2013年3月25日(ファンド設定日)~2017年1月31日)



※「ファイン・ブレンド」は、資産成長型の税引前分配金再投資ベースの基準価額
※グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではない
(販売用資料を基に編集部で作成)

図表2 各資産の月間最大/最小リターン (計算期間:2013年3月*~2017年1月) *2013年3月は設定時からの騰落率



※グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではない
(販売用資料を基に編集部で作成)

を踏まえて利用が拡大した手法です。期待リターンの推計は行わず、いかにリスクを分散するかを重視します。具体的には、各資産のボラティリテ

ィ(リスク)や、各資産間の相関関係などに着目して、互いのリスクを打ち消しやすいう資産配分を作っていく戦略です。